

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 松田 百合）

「質問づくり」により、生徒に、前時の学習内容や保育園実習での体験学習を活用させ、子どもの生活と食事の関わりを思考させるとともに、食事以外の生活習慣のあり方への興味・関心を高めさせ、次時からの学習に向けた学びの姿勢を形成させることを意図した指導案となっている。板書、掲示物、スライド等を工夫し、明確な指示と発問により学習活動を促し、生徒の思考が深まるよう工夫された授業展開となっている。

- 1 日時・場所 平成30年11月5日（月） 第5限（50分） 被服室
- 2 学年・学科 第3学年 生活科（生徒39名）
- 3 題材名 子どもの生活
- 4 題材について

(1) 題材観

本題材は、子どもの生活について、生活習慣の形成を時間軸で捉えながら、健康管理、栄養と食事、被服、睡眠、排泄、遊び・運動などの各生活行動における保育者の適切な関わりについて知識と思考を深めていく題材である。高校3年生は、「育つ側」であった子どもの視点から、「育てる側」である保育者の視点へと移行する時期であり、近い将来、自分自身が「子どもを育てる立場」になることを意識させ、興味・関心を高めるとともに、基礎的・基本的知識と技術を習得させることが重要となる。これらのことから、子どもの生活の特徴を理解した上で、子どもにとってのよりよい生活とは何かを考え、その中で生じる課題を解決するための実践的な手立てを考える適切な思考力と判断力を身に付けることを目指す。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、人間の生活を探究し、健康で安全な生活を科学的視点からとらえ、より快適で安心できる生活環境を創造する力を身に付けることを目標とする本学科の教育活動に高い興味・関心を持ち入学してきた生徒である。年度初めに実施した保育の学習に関わるアンケートでは、9割以上の生徒が、自分が親になり子育てにかかわることを望んでおり、保育の学習に興味があると回答している。中学校段階の既習内容としては、約7割の生徒が子どもの遊びや食生活・衣生活などの子どもの生活に関わる内容、約5割の生徒が身体的・精神的発達に関する内容を学習し、約8割が保育実習への参加を経験している。また、対象生徒は5月と10月末の交流実習を通して、5歳児の子どもの発達段階について体験的な理解を深め、子どもの発達に対するイメージが持ちやすい状態にある。

(3) 指導観

生活習慣に関する学習を活用した“質問作り”を行うことを通して、内容の理解を深めるとともに、生徒の関心と意欲を引き出し、本題材の内容に対する理解の促進を図る。また、他者とのコミュニケーションにより思考を深め、多様な視点を持って適切な行動や働きかけを選択できる力を身に付けさせるため、ペアやグループで取り組むKJ法や演習を取り入れる。その際、“質問作り”を振り返ることで、各生活行動と将来の生活習慣の関連性の理解を促進させたい。また、本時で行う“質問作り”は、幼稚園実習前に一度経験させているものであるが、より思考を深める活動とするため、ワークシートの改善を行い、生徒の行う活動とルールの明確化を図る。

5 題材の目標

乳幼児の生活の特徴と適切な養護のあり方、生活習慣の形成、健康管理と事故防止などについて理解させ、乳幼児の健全な発育・発達を図るために必要な能力と実践的な態度を身に付ける。

6 題材の計画と評価の観点

時	主な学習活動	評価の観点			
		関	思	技	知
1	子どもの生活習慣 子どもの生活リズムと心身の健康を整えるために生活習慣の形成が重要であることを理解する。	○			◎
2	子どもの食事（質問作り） 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことについて考える。→本時		◎		
3	子どもの食事 子どもの食生活の意義や食事の変化について考え、乳幼児の食事と食習慣の形成について理解を深める。		○		◎
4	子どもの衣服 KJ法により、子どもの衣生活の意義について考えを深め、保育者の視点から子どもの衣服の選択のあり方について考える。		◎		○
5	子どもの健康と看護 子どもの健康管理の要点と具体的な養護方法を理解し、演習問題に取り組み、状況に応じた適切な行動を選択する。			○	◎

7 本時の展開

(1) 本時の目標

食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことについて考えることができる。

(2) 本時の評価規準

食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことについて考え、自分の意見を記述している。

【思考判断・表現】

(3) 準備物

教科書「子どもの発達と保育」(実教出版)、ワークシート、パソコン、プロジェクター、  
掲示用模造紙、ホワイトボード、マーカー、ふせん

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>めあて ※活動の妨げとなるため生徒への提示は行わない 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことについて考え、自分の意見を記述することができる</p>		
<p>1 前時の内容を確認する 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣について再度理解する。</p> <p>2 本時の活動内容を知る。 質問作りの流れを確認する。 ①質問を作る。 ②質問を分類する。 ③質問を変換する。 ④優先度の高い質問を3つ挙げる。 ⑤振り返りを行う。</p> <p>3 質問の焦点を提示する。</p>	<p>◇前時の内容を簡潔に復習するために、クイズ形式で確認させる。 ◆問題をスライドに映すことで、問われていることを視覚的にも確認させる。 ◇質問作りの流れをスライドを用いて説明し、方法を復習させる。 ◆質問作りにおけるルールや、補足説明が必要となる質問の種類については、生徒自身がいつでも確認できるよう掲示物を用いる。 ◆活動中は常に強調して掲示する。</p>	
<p>質問の焦点 子どもにとっての食事は生活の土台となる</p>		
<p>4 4～5人のグループで8班に分かれ、質問作りの活動に取り組む。 ①質問を作る。 ②質問を分類する。 ③質問を変換する。 ④優先度の高い質問を3つ挙げる。 ⑤振り返りを行う。</p>	<p>◇質問作りの流れに沿って、時間を区切りながら進行する。 ◇質問を作る時は例を示すことなく、質問の焦点とルールを強調し、活動に集中するよう伝えながら、机間指導を行う。 ◇取り組みが滞るようであれば生徒の状況に応じて質問の焦点を別の言葉に変更する。 ◆活動前に、ルールの重要性をクラスで共有することで発言しやすい雰囲気を作る。 ◆振り返りはワークシートを用いて個人で行い、記述しやすいように質問作りによって何が学べたか、どのようにこれからの学習に生かしていくかなど具体的な項目を設ける。 ◇本時の活動内容を振り返り、活動の中で共有された意見を再度全体で共有する。その後、次時の内容を確認するとともに、振り返りの内容は次時の初めに共有することを伝える。</p>	<p>食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことについて考え、自分の意見を記述している。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)</p>
<p>生徒の作る質問例 食事以外に土台になる生活行動は何か？</p>		
<p>5 本時のまとめを行い、次時につなげる。</p>		